



さいたま市

令和4年度
さいたま市学習状況調査
正答例等

【国語】



令和5年1月
さいたま市教育委員会

目 次

I	正答例と特徴的な問題の解説	
i	小学校第3学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	2
2	調査問題一覧表【設問別】	3
3	正答例	4
4	特徴的な問題と解説	5
ii	小学校第4学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	6
2	調査問題一覧表【設問別】	7
3	正答例	8
4	特徴的な問題と解説	9
iii	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	10
2	調査問題一覧表【設問別】	11
3	正答例	12
4	特徴的な問題と解説	13
iv	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	14
2	調査問題一覧表【設問別】	15
3	正答例	16
4	特徴的な問題と解説	17
v	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	18
2	調査問題一覧表【設問別】	19
3	正答例	20
4	特徴的な問題と解説	21
vi	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	22
2	調査問題一覧表【設問別】	23
3	正答例	24
4	特徴的な問題と解説	25

I 正答例と

特徴的な問題の解説

国語科の調査問題について、小学校第3学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらいを示しています。

3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を児童生徒向けに提示しています。

4 特徴的な問題と解説

令和4年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名	略称
平成〇年度 全国学力・学習状況調査	平成〇年度全国調査
平成〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇算数	平成〇年度市調査【小〇】
平成〇年度 さいたま市学習状況調査 中〇数学	平成〇年度市調査【中〇】

なお、本書で記載している全国調査の正答率は、市の正答率を示している。

i 小学校第3学年

1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一	漢字	本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題である。そのために、社会科見学のお礼の手紙といった日常で使われる場面を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。
		二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、令和元年度市調査同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
		三	指示語	本問題は、指示語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。
我が国の言語文化に関する事項	2		穂先の向きに注意して書く	本問題は、点画に応じた筆使いを理解して書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、文字の大きさ、「はね」の向き、「おれ」の筆の動きを取り上げている。なお、令和元年度市調査の類似の問題である。
読むこと	3		けん玉が上手になるかまえ方をまとめる	本問題は、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて、文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、説明的な文章を読み、文と文の関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、文脈に合う適切な言葉を選択する力が求められる。
読むこと	4		犬のヒロシの性格をまとめる	本問題は、登場人物の性格を捉えて文章を読むことができるかどうかを見る問題である。ここでは、登場人物の性格を捉えるために、登場人物の会話文や行動描写、気持ちが書かれている文に着目して読み、それらの叙述から登場人物の性格を読み取る力が求められる。
書くこと	5		常体と敬体の文末表現に気を付けて書く	本問題は、常体と敬体の違いに注意しながら書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手や目的に応じて常体と敬体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら書く力が求められる。
話すこと・聞くこと	6		3学期の目標についてスピーチする	本問題は、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができるかどうかをみる問題である。ここでは、音声の面から話し手が気を付けることについて理解していることが求められる。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)	
		(1)	(2)	(3)	A	B	C											
		言葉の使い方や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと											
1	一ア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選						
	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(長)	○						○			選						
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(多)	○						○			選						
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(広)	○						○			選						
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(地)	○						○			選						
	二ア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市【小3】	76.0	小4	
	二イ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市【小3】	36.8	小4	
	三	指示語の役割を理解している。	○						○			選			R1市【小3】	76.7	小4	
2		穂先の向きに注意して書くことができる。			○				○		選			R1市【小3】	86.4			
3		目的に応じて、中心となる語や文を捉えて、文章を読むことができる。							○		選			R1市【小4】	59.3			
4		登場人物の性格を捉えて文章を読むことができる。							○		選			R2全国				
5		常体と敬体の違いに注意しながら書くことができる。							○		選			R1市【小3】	69.2			
6		相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。				○			○		選			R1市【小3】	32.9	小4		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校国語3学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1ーア	1	かん字をれんしゅうする時は、かん字の書き方のみをれんしゅうするのではなく、言ばをしらべたり、文を作ったりするなど、文の中でつかうことをいしきしましょう。また、国語じてんをつかって、ことばをしらべ、つかえることばをふやしたり、同じ読み方のかん字をかくにんしたりするなど、かん字のもついみを考えて使うしゅうかんをみにつけましょう。
1ーイ	3	
1ーウ	3	
1ーエ	2	
1ーオ	2	
1ニア	13	しゅ語・じゅつ語を見つける3ステップ ①「ね」を入れて、文を一つ一つのことばに分けましょう。 ②じゅつ語を文のおわりにちゅう目してさがしましょう。そのじゅつ語とむすびつくしゅ語（言ばのさい後が「は」「が」「も」でおわっているもの）をさがしましょう。
1ニイ	34	③しゅ語とじゅつ語をつなげて、いみが分かる文かたしかめましょう。ふだんからしゅ語とじゅつ語をいしきして、文を読んだり、書いたりすることが大切です。
1ニ	3	「こそあど言葉」のようなしじ語は、しじ語よりも前にさす言ばがあります。さす言ばをしじ語にあてはめて、意味が通じるかをたしかめてみましょう。
2	3	学しゅうのめあてにそって自分の書いた文字を見直したり、友だちと作ひんを見せ合っしてじよ言し合ったりしましょう。
3	2	文しょうを読むときに、時や場しよ、中心となりそうな言ばや文しょうに線を引くことで、文と文のかんけいが見えたり、その文しょうにおける大切な言ばが分かりやすくなったりします。
4	3	とう場人ぶつのせいかくをとらえるためには、その人ぶつが「したこと」「言ったこと」「思ったこと・考えたこと」が書かれている文にちやく目しましょう。一つの文だけでせいかくをとらえるのではなく、さまざまな文をむすびつけて考えることで、よりくわしくせいかくをとらえることができます。
5	2	あい手や目てきにおうじて、「～です」「～ます」の書き方と、「～だ」「～である」の書き方を使い分けられるようにしましょう。会話文の文まつは、それ以外の文（地の文）の書き方と同じにならないことがあるので気をつけましょう。
6	4	スピーチをするときにあい手のはんのうを見ながら話したり、声の上げ下げや、つたえたい言ばの声の強さ、間のとり方をくふうしたりすることで、話の内ようがあい手によりつたわりやすくなります。

ii 小学校第4学年

1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一	漢字	本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。そのために、お礼の手紙という日常で使われる場面を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。
		二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、令和元年度市調査同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
		三	指示語	本問題は、指示語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。
我が国の言語文化に関する事項	2		文字の組み立て方を理解して書く	本問題は、点画に応じた筆使いを理解して書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、文字の大きさ、「はね」の向き、「おれ」の筆の動きを取り上げている。なお、令和元年度の市調査の類似の問題としている。
読むこと	3		モンシロチョウを説明する文章を読む	本問題は、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的を意識して説明的な文章を読み、必要な情報を捉えるために、中心となる語や文に着目して読む力が求められる。
書くこと	4		「5年生でがんばりたいこと」を分かりやすく書く	本問題は、文章全体の構成に着目して文章を整えたり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりすることができるかどうかをみる問題である。ここでは、文章を書く相手や目的を念頭に置きながら、文章を推敲する力が求められる。
・聞くこと ・話すこと	5		3学期の目標についてスピーチする	本問題は、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができるかどうかをみる問題である。ここでは、音声の面から話し手が気を付けることについて理解していることが求められる。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
		(1)	(2)	(3)	A	B	C										
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
1	一ア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(起)	○						○			選					
	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(身)	○						○			選					
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(陽)	○						○			選					
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(転)	○						○			選					
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選					小3
	二ア	文中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市【小4】	80.7	小3
	二イ	文中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市【小4】	41.8	小3
	三	指示語の役割を理解している。	○						○			選			R1市【小4】	86.7	小3
2		文字の組立て方を理解して書くことができる。			○				○			選			R1市【小4】	64.7	
3		目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読むことができる。							○		○	選			R1市【小4】	66.1	
4		相手や目的に応じて、文章を整えることができる。							○		○	選			H30市【小5】	70.4	
5		相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。				○				○		選			R1市【小4】	49.9	小3

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には○を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校国語4学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1-ア	2	漢字を練習する時は、漢字の書き方のみを練習するのではなく、じゅく語を調べたり、文を作ったりするなど、文や文章の中で使うことを意識しましょう。 国語じてんや漢字じてんを使って、じゅく語を調べて使える言葉をふやしたり、同じ読み方の漢字をかくにんしたりするなど、漢字のもつ意味を考えて使う習かんを身につけましょう。
1-イ	3	
1-ウ	2	
1-エ	3	
1-オ	1	
1ニア	13	主語・じゅつ語を見つける3ステップ ① 「ね」を入れて、文を一つ一つの言葉に分けましょう。 ② じゅつ語を文の終わりに注目してさがしましょう。そのじゅつ語とむすびつく主語（言葉のさい後が「は」「が」「も」で終わっているもの）をさがしましょう。 ③ 主語とじゅつ語をつなげて、意味が分かる文かたしかめましょう。 ふだんから主語とじゅつ語を意しきして、文を読んだり、書いたりすることが大切です。
1ニイ	34	
1ニ	3	「こそあど言葉」のようなしじ語は、しじ語よりも前にさす言葉があります。さす言葉をしじ語にあてはめて、意味が通じるかたしかめてみましょう。
2	3	学習のめあてにそって自分の書いた文字を見直したり、友だちと作品を見せ合って助言し合ったりしましょう。
3	3	自分が知りたいじょうほうを見つけるための読み方として、キーワードに着目する読み方があります。書かれている内ようすべてをくわしく読むのではなく、知りたいじょうほうのキーワードが書かれているところをさがし、その部分をくわしく読むと、知りたいことが見つけやすくなります。
4	2	相手や目てきを意しきし、読み手が読みやすいこうせいや表げんになっているかを考えましょう。そのために、文章を書いた後は、友だちと読み合ってアドバイスし合ったり、下書きと書き直した後の文章を比べたりするとよいでしょう。
5	4	スピーチをするときに相手の反のうを見ながら話したり、声の上げ下げや、つたえたい言葉の強調、間の取り方をくふうしたりすることで話の内ようが相手によりつたわりやすくなります。

4 特徴的な問題と解説

小学校第3, 4学年 「我が国の言語文化に関する事項」

【特徴的な問題】

問題 3年² 4年²

出題の趣旨

本問題は、点画に応じた筆使いを理解して書くことができるかどうか（3年）、文字の組立て方を理解して書くことができるかどうか（4年）をみる問題である。そのため、授業の中で、自分が書いたものを見直し、作品を仕上げる場面を設定した。ここでは、それぞれの学年で、毛筆で文字を書く際に学習課題となっている内容を取り上げている。

指導のポイント

○自分の書いた文字を見直しながらかく

毛筆で文字を正しく整えて書く能力を身に付けることは、日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となる。1、2年生において、硬筆等で基礎的な学習をしてきた点画の種類や書き方について、3年生から始まる毛筆による学習を通して、より一層理解を深めて書けるようにしたい。毛筆を使用することで、点画の書き方と筆圧を関連付けて書くことができるようになることも意識して指導し、硬筆にも生かしたい。各学年の段階に応じて、点画の書き方、筆圧、文字の組立て方、文字の大きさや配列等を指導し、授業において学習課題を明確にすることが大切である。

具体的には、本問のように、児童が学習課題に即して自分の書いた文字を見直し、どのような点に気を付けて書き直すよいかを考え、互いに助言し合うなどの活動を設定し、児童にとって課題解決の過程となるように指導することが考えられる。

また、毛筆を使って学習したことを生かして、鉛筆やペンを使って書くなど、毛筆指導と硬筆指導を関連させる学習の充実を図り、毛筆で学習したことを日常生活で生かすことを意識できるようにすることも大切である。

○書写の能力を学習や生活に役立てる場面を設定する

生活や学習活動の文字を書く様々な場面において、書写の学習で身に付けた知識・技能を積極的に生かす場面を設定することが大切である。具体的には次のような活動が考えられる。

- ・ポスターや新聞、パンフレット、リーフレットなどのタイトルを書く。
- ・「今年の目標」「活動のめあて」などを書く。
- ・お礼の手紙や親しい人への手紙を書く。

○伝統的な文化に触れる機会を設ける

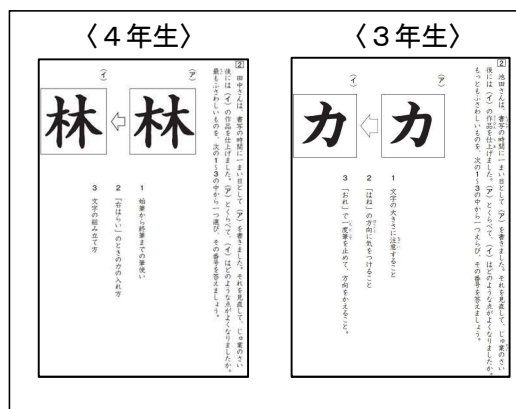
半紙による毛筆の練習で毛筆の扱いを習得したのち、高学年等においては、和紙や色紙等を用いた創作活動を取り入れ、日本の伝統的な文化に触れる機会を設けたい。例えば、国語の俳句や短歌の学習と関連させて作品作りをすることが考えられる。日本の豊かな文字文化の継承の基礎ともなる活動として、取り入れていきたい。

○ICTを活用する

作品の写真をタブレットに保存して、学習の前後で比較したり、友達と見せ合って、よくなった点を伝え合ったりする活動等が考えられる。

(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」



iii 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一	漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題である。そのために、夏休みの思い出という児童にとって身近な話題を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。
		二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、令和元年度市調査同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
		三	敬語	本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係やその場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。
情報の扱い方に関する事項	2		国語辞典を使って調べる	本問題は、表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができるかどうかをみる問題である。ここでは、国語辞典に示されたそれぞれの意味と例文とを関係付けたうえで、文脈に適した意味を適切に捉える力が求められる。
読むこと	3		俳句を調べ紹介する	本問題は、俳句の情景をとらえることができるかどうかをみる問題である。ここでは、声に出して読みながら、二つの俳句に共通する点や、作者が捉えた情景や季節感を捉える力が求められる。
書くこと	4		読書月間について新聞にまとめる	本問題は、自分の考えが伝わるようにするために、適切な図表を用いることができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的や意図に応じて、どのような図表を用いれば効果的かを考える力が求められる。
書くこと	5		「学校じまん」の発表原稿を書き直す	本問題は、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりする力が求められる。
話すこと・聞くこと	6		自然の教室での活動のスピーチをする	本問題は、話の内容が明確になるように、話の構成を考えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、事実と感想、意見とを区別するように構成する力が求められる。
話すこと・聞くこと	7		「あいさつキャンペーン」の取組内容を話し合う	本問題は、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し手の問いに対し、共感しつつ新たな考えを提示するなどして効果的に助言をしていることを説明することが求められる。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)		
		(1)	(2)	(3)	A	B	C												
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと												
1	一ア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(初)	○						○			選							
	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(課)	○						○			選							
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選					小3 小4		
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(完)	○						○			選							
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(放)	○						○			選							
	二ア	文中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市 【小5】	74.0		小6	
	二イ	文中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市 【小5】	57.4		小6	
	三	相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができる。	○						○			選			R1市 【小5】	51.1		小6	
2			○					○			選			◎R1市 【小5】	85.8				
3	一	俳句の情景を捉えることができる。						○	○		選			H30市 【小5】	83.8		小6		
	二	俳句の情景を捉えることができる。						○	○		選			H30市 【小5】	54.9		小6		
4	一	自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。						○	○		選			H29市 【小6】	77.6				
	二	自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。						○	○		選			H29市 【小6】	51.4				
5							○	○			選			R1市 【小5】	69.4				
6							○	○			選			R3全国	81.2				
7	一①	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	66.2		小6		
	一②	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	66.2		小6		
	一③	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	66.2		小6		
	二	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	35.8		小6		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校国語5学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1-ア	2	漢字を練習する時は、学習した漢字の書き方だけを練習するのではなく、新出漢字を使ったじゅつ語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文や文章の中で使うことを意識して練習しましょう。その時、国語辞典や漢字辞典も使って語いを増やせるとよいでしょう。他の教科や日じょう生活の中でも、学んだ漢字を積極的に使しましょう。
1-イ	3	
1-ウ	1	
1-エ	2	
1-オ	2	
1ニア	24	主語・じゅつ語を見つける3ステップ ① 「ね」を入れて、文を一つひとつの言葉に分けましょう。 ② じゅつ語を文末に着目して探しましょう。そのじゅつ語と結びつく主語（言葉の最後が「は」「が」「も」で終わっているもの）をさがしましょう。 ③ 主語とじゅつ語をつなげて、意味が分かる文かたしかめましょう。 ふだんから主語とじゅつ語を意識して、文を読んだり、書いたりすることが大切です。
1ニイ	35	
1三	4	けい語には「そんけい語」「けんじょう語」「丁寧い語」があり、相手のしていることは「そんけい語」を使います。自分や自分の家族には「そんけい語」は使いません。生活の中で意識して使うことで身に付いていきます。
2	2	同じ読み方でも、漢字や意味がことなる言葉があります。日じょうで国語辞典等で意味を調べることをふやし、習かんにするとよいでしょう。
3-	1	はいくには、どく特のリズムや美しい語調がそなわっています。音読をすることにより、美しさや楽しさを味わってみましょう。他にも、自分達の地いきをよんだはいくをさがしてもよいでしょう。
3ニ	3	
4-	2	新聞などでし料を使うときには、自分の伝えたいことに合わせて「どのようなし料を入れると、よりこう果的か」をよく考えることが大切です。
4ニ	1	見出しを付けるときには、まず、「何を伝えたいのか」をはっきりさせましょう。そして、どうしたら読み手の関心を引き付けることができるのかを考えて、「言葉の順じよを変えて強調する」「呼びかける表げんにする」「キーワードで伝える」など、表げんの仕方をくふうしてみましょう。
5	3	目的や意図におうじて、かん単に書いたり、くわしく書いたりすることで、自分の考えが伝わるようになります。また、事実と感想、意見とを区別して書いたりすることも自分の考えを伝えるための書き表し方のくふうになります。
6	1	話の内じよを明かくにするために、事実と感想、意見とを区別して、話のこう成を考えましょう。スピーチは、表げんの仕方（声の大きさ、強弱、間の取り方、し料の活用など）のくふうを意識し、友達と助言し合ったり、タブレットで自分の話す様子を録画してふり返ったりしてみましょう。
7-①	4	助言をする時には、相手の立場に合わせて、共感的なたい度で相手が話す内じよを理かいしていくことが重要です。また、具体的な意見やてい案を一方向的に伝えるのではなく、相手が自ら課題をかい決できるような助言をすることが大切です。助言をし合っている様子をグループ同士で見合うことで、どんな助言の仕方が有こうであったかをかくにんしてみるとこう果的です。
7-②	1	
7-③	3	
7ニ	1	

4 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 「話すこと・聞くこと」

特徴的な問題

問題 6

出題の趣旨

本問題は、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができるかどうかをみる問題である。そのために、スピーチをする場面を設定した。ここでは、保護者に向けて自然の教室での活動を明確に伝えるために、話の構成を考える力が求められる。

指導のポイント

○スピーチのモデルを活用し、ゴールイメージをもつ

国語科は言語活動を通して資質・能力を育成する教科である。言語活動を位置付け、主体的な学びを展開するための手立ての一つとして「モデルの活用」がある。話す・聞くの単元では、モデル動画の活用をすることが効果的である。モデル学習で気付いたことをまとめ、児童と共有することで、単元を通して意識することができる。よいモデルと、悪いモデルを比較することで、よいモデルの工夫に気づきやすくする手立てもある。



スピーチのモデルを見て、気付いたことはありますか？

大事なところは、ゆっくり、強調して話しています。

具体例を挙げながら、分かりやすく話しています。



いろいろなことに気づきましたね。では、気付いたことをもとに、それらを「スピーチのコツ」としてまとめましょう。

○話の内容が明確になるように、スピーチメモや原稿を作成する

目的や意図に応じて、話の構成を工夫し、話の要点を短い言葉で順序立てて記述するように指導する。原稿を作成する際には、話す速さを考慮して、文字数を定めることが大切である。（話す時間は、1分間で、300字程度の文字数が適当。）

○スピーチの練習を行い、友達と助言し合う

話し言葉には、発せられた途端に消えていくという特質がある。自分のスピーチの改善点を検討するために、話す様子をタブレットで撮影するなどして、児童が自分自身の話す様子を振り返ることができるようにすることが大切である。

(参照)

- ・さいたま市教育委員会「令和元年度 さいたま市学習状況調査報告書 小学校 国語」
- ・国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査授業アイデア例」

【大谷さんのスピーチメモ】

【はじめ】

○話題の提示

- ・自然の教室のめあてについて
- ・自然の教室のかんたんな説明

【中】

○自然の教室での活動

- ・活動1
キャンプファイヤーについて
- ・活動2
ゲレンデトレッキングについて

【終わり】

○自分の感想

- ・活動を通して学んだこと、これからの学校生活に生かしたいこと

iv 小学校第6年

1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一	漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題である。そのために、清掃工場の見学のまとめという学習場面の話題を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。
		二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、令和元年度同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
		三	敬語	本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係やその場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。
情報の扱い方に関する事項	2		国語辞典を使って調べる	本問題は、表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができるかどうかをみる問題である。ここでは、国語辞典に示されたそれぞれの意味と例文とを関係付けたうえで、文脈に適した意味を適切に捉える力が求められる。
読むこと	3		俳句を調べ紹介する	本問題は、俳句の情景を捉えることができるかをみる問題である。ここでは、二つの句に共通すること、作者が捉えた情景や季節感を捉える力が求められる。
読むこと	4		推薦文を比較し、ノートにまとめる	本問題は、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題である。ここでは、友達が書いた物語の推薦文をそれぞれの観点に即して解釈し、該当する内容を適切に取り出し、まとめる力が求められる。
書くこと	5		「言葉の使い方」についてまとめる	本問題は、書くために集めた材料を関連付け、伝えたいことを明確にできるかどうかをみる問題である。ここでは、報告文を書くために、材料相互の関連を整理し、示すべき事実を選択する力が求められる。
話すこと・聞くこと	6		新しく着任した先生へインタビューする	本問題は、相手や目的に応じて内容を取り上げ、考えを比較しながら聞くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手や目的、状況に応じた内容を考える力や、反応を示したり内容を深めたりして聞く力が求められる。
話すこと・聞くこと	7		「あいさつキャンペーン」の取組内容を話し合う	本問題は、話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し手の問いに対し、共感しつつ新たな考えを提示するなどして効果的に助言をしていることを説明することが求められる。
書くこと	8		「かるたの遊び方」のお知らせを書き直す	本問題は、書き手の表現の仕方に着目して助言し合うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、どのように書き直すと読み手にとって分かりやすい表現となるかを考える力が求められる。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数年度での出題	
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
		(1)	(2)	(3)	A	B	C										
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
1	一ア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(集)	○						○			選					
	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(生)	○						○			選					
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(最)	○						○			選					
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選				小3 小4 小5	
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(積)	○						○			選					
	二ア	文中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市 【小6】	82.5	小5
	二イ	文中の主語と述語の関係を理解している。	○						○			短			R1市 【小6】	64.8	小5
	三	相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができる。	○						○			選			R1市 【小6】	67.8	小5
2			○					○			選			◎R1市 【小6】	75.2		
3							○		○		選			H30市 【小6】	54.9	小5	
4	ア	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について、自分の考えをまとめることができる。						○		○		選			H29市 【小6】	84.1	
	イ	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について、自分の考えをまとめることができる。						○		○		選			H29市 【小6】	70.9	
5							○		○		選			R1市 【小6】	50.3		
6							○		○		選			H28市 【小6】	73.5		
7	一①	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	66.2	小5	
	一②	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	66.2	小5	
	一③	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	66.2	小5	
	二	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選			H29市 【小6】	35.8	小5	
8						○		○		選							

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。
調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査
なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数年度での出題」とは、本調査において複数の年度で同一の問題等を問題を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校国語6学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1ーア	2	漢字を練習する時は、学習した漢字の書き方だけを練習するのではなく、新出漢字を使った熟語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文や文章の中で使うことを意識して練習しましょう。その時、国語辞典や漢字辞典も使って語いを増やせるとよいです。他の教科や日常生活の中でも学んだ漢字を積極的に使いましょう。
1ーイ	3	
1ーウ	3	
1ーエ	1	
1ーオ	1	
1ニア	24	主語・述語を見付ける3ステップ ① 「ね」を入れて、文を一つひとつの言葉に分けましょう。 ② 述語を文末に着目して探しましょう。その述語と結びつく主語（言葉の最後が「は」「が」「も」で終わっているもの）を探しましょう。 ③ 主語と述語をつなげて、意味が分かる文かたしかめましょう。 ふだんから主語と述語を意識して、文を読んだり、書いたりすることが大切です。
1ニイ	35	
1三	4	けい語には「そんけい語」「けんじょう語」「丁寧い語」があり、相手のしていることは「そんけい語」を使います。自分や自分の家族には「そんけい語」は使いません。生活の中で意識して使うことで身に付いていきます。
2	4	生活の中には、似た意味の言葉があります。言葉によっては、同じようには使えないものもあります。生活の中で、国語辞典等を使い、言葉の意味と例文とを関係付けた上で、文脈に適した意味の言葉を使うことができるようにしましょう。
3	4	はい句の学習では、情景をとらえることが大切になります。はい句を声に出して読んでみるとよいでしょう。言葉のひびきやリズムに親しむこともできるようになり、はい句の中の情景を想像できることにもつながります。
4ア	3	文学的な文章を読んだ後にすいせん文を書く際には、登場人物のおたがいの関係や気持ちの変化、情景についての表現をとらえ、すぐれた表現について、自分の考えをまとめることが大切になります。そのために、読んで分かったことを、観点ごとに適切に取り出し、まとめていくとよいでしょう。
4イ	2	
5	4	報告文などを書くためには、資料から集めた情報を関連付け、伝えたいことを明確にすることが大切です。何を伝えたいかをはっきりさせることで、必要な情報をしぼり、それらを整理したメモを作っていくとよいでしょう。
6	2	新しい先生をしようか決めるために、よさを引き出すことがインタビューの目的であることから「みんながすでに知っていること」や「もっと知りたいこと」を下調べする必要があります。インタビューの際は、一問一答形式では、十分に相手の特ちょうや思いなどを引き出すことができません。相手の発言の思いをくみ取って聞き返したり、共感したことや納得したことを伝えたりしながら質問の内容を深めて聞きましょう。
7ー①	4	助言をする際には、相手の立場や状況に合わせて、共感的な態度で相手が話す内容を理解していくことが重要です。また、具体的な意見や提案を一方的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるような助言をすることが大切です。助言をし合っている様子をグループ同士で見合うことで、どんな助言の仕方が有効であったかを確認してみると効果的です。
7ー②	1	
7ー③	3	
7二	1	
8	1と5	お知らせなどを書く際には、読み手にとって分かりやすい表現となるかを考えることが大切です。「だれに、何のために書くのか」、書く目的や意図をはっきりとさせ、くわしく書く必要のあるところや、かん単に書いた方が効果的であるところを判断しながら書くこととよいでしょう。

4 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 「読むこと」

【特徴的な問題】

問題 4

【小林さんが書いた推せん文】

みなさんは、同じ物語をくり返し読んだことはありませんか。そのような読み方をしたことがない人に、新美南吉さんが書いた「こんぎつね」をおすすめします。

この物語では、兵十に「神様のおかげ」とかんちがいされても、ごんが兵十の家にくりや松たけをとどけ続ける場面があります。私は、なぜごんがそのようなことをしたのかに気がになり、物語の全体をくり返し読みました。

「こんぎつね」は、小ぎつねのごんが主人公の話です。村へ出てきていたずらばかりしていたごんは、兵十がとったうなぎを逃がしてしまいます。十日ほど後、兵十の母が亡くなったことを知ったごんは、あの時逃がしたうなぎが、兵十が病気の母のために用意していたものだと思い、後かいます。母を失った兵十に同情したごんは、つぐないのつもりで、兵十の家にとどけ物を始めますが…。

私は、ごんと兵十の関係に注目しながら何度も読み返しました。すると、兵十にかんちがいされても、ごんがくりや松たけをとどけ続ける理由が理解できたような気がしました。みなさんにも、ぜひ読んでほしいです。

【西谷さんが書いた推せん文】

私は、「こんぎつね」を読んで、新美南吉さんの作品に興味をもちました。それは、「こんぎつね」のような動物と人間が心を通わせる世界がおもしろくて、もっと読んでみたいと思ったからです。そこで、図書室で新美南吉さんの作品を探してみると、すると、「手ぶくろを買いに」という物語がありました。これも、きつねが主人公の物語です。

雪の朝、母ぎつねは手ぶくろを買ってあげようと思いつきます。夜になって町に出かけるどちゅうで、母ぎつねは手ぎつねの片手をにぎって、人間の子どもの手に変えます。町に着くと、手ぎつねは店を見つけて戸をたたきます。店主が戸を開けた時に差しこんだ明かりがまぶしくて、手ぎつねはついきつねの手の方を出して「手ぶくろをください。」と言ってしまう。相手は手ぎつねだと気づいた店主は…。

私は、この物語を読んで、「こんぎつね」と同じように動物と人間が心を通わせる世界を感じることができました。私は、同じ作者が書いた別の物語を読むことで、さらに物語の世界を楽しむことができます。その楽しさを味わうために、「こんぎつね」と「手ぶくろを買いに」をおすすめします。

出題の趣旨

本問題は、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題である。そのために、2人の友達が書いた物語の推薦文をそれぞれの観点に即して解釈する場面を設定した。ここでは、該当する内容を適切に取り出し、まとめる力が求められる。

指導のポイント

○目的や意図に応じて文章を効果的に読む力を高める

高学年になると、読書の幅が広がり、本を中心とした様々なメディアへとその活用や情報収集の範囲も広がっていく。それに応じて本や文章の読み方を広げていく必要がある。

「効果的な読み方」には、比べ読み、速読、摘読（全体を概読しながら拾い読みすること）、多読などがある。

今回は「友達に本を推薦する」という目的に沿って推薦したい部分を見付けて読むことが「効果的な読み方」となる。そのことを意識して読む指導をすることが大切である。

○推薦文を書くときのモデルとして、問題文を活用する

国語科は、言語活動を通して資質・能力を育成する教科である。言語活動を位置付け、主体的な学びを展開するための手立ての一つとして「モデルの活用」がある。

言語活動として「推薦文を書くこと」を位置付けた学習を行うときには、今回出題した【小林さんが書いたすいせん文】【西谷さんが書いたすいせん文】をモデル例として活用することができる。



(参照)

・国立教育政策研究所「令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

v 中学校第1学年
1 調査問題【出題の趣旨】

<p>1 話すこと・聞くこと</p>	<p>話し合いをする</p>	<p>SDGsについて学習したことを基に自分たちにできることについて、グループで話し合う場面を設定した。司会や参加者としての役割を意識し、話題や展開を捉えながら話し合うことや、自分の発言と他者の発言を結び付けて考えをまとめることを求めている。</p>
<p>2 書くこと</p>	<p>意見文を書く</p>	<p>「思いを伝えたい時には、『手紙』と『メールやSNS』のどちらが良いか」というテーマについて、パソコンを使用して意見文の下書きを書く場面を設定した。自分の考えが伝わる文章になるように、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめるとともに、文章の構成や展開を考えたり、根拠を明確にしたりすることを求めている。</p>
<p>3 読むこと</p>	<p>文学的な文章を読む</p>	<p>『つぼみ』という作品を取り上げた。場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えるとともに、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、登場人物の心情について考えることを求めている。</p>
<p>4 知識及び技能</p>	<p>漢字</p>	<p>音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うことを求めている。</p>
	<p>文や文章</p>	<p>主語と述語との関係や、指示する語句と接続する語句の役割について理解することを求めている。</p>
	<p>書写</p>	<p>漢字の行書の特徴として、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどを理解することを求めている。</p>
	<p>伝統的な言語文化</p>	<p>現代の口語とは異なる古文特有のきまりの一つとして、歴史的仮名遣いを理解することを求めている。</p>
	<p>表現の技法</p>	<p>「雨の日の花」という作品を取り上げた。詩に表れる表現の工夫に気付くことを求めている。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数年度での出題	
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
		(1)	(2)	(3)	A	B										
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと									
1	1				○			○	選							
	2				○			○	選							
	3				○			○	選							
	4				○			○	選							
2	1					○		○	選							
	2					○		○	選							
	3	○				○		○	短							
	4	○				○		○	選							
3	1						○	○	選							
	2						○	○	短							
	3						○	○	選							
	4						○	○	選							
	5-1							○	短							
	5-2							○	短							
4	1(1)	○						○	選							
	1(2)	○						○	選							
	2-1	○						○	選		R1市 【中1】 R1市 【中2】	56.1 59.6		小6 中2		
	2-2	○						○	選							
	3	○						○	選							
	4	○						○	選							
	5(1)			○				○	選							
	5(2)			○				○	選							
6			○				○	短		R1市 【中1】 R1市 【中2】	63.0 74.5		中2			
7	○						○	選		R1市 【中1】 R1市 【中2】	65.0 71.1		中2			

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げて(同一問題には◎を付けている)。
 調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査。「全国」：全国学力・学習状況調査
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数年度での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中学校国語第1学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等	
1	ウ	この話し合いにおける、班長の鈴木さんの司会としての役割について、話し合い全体を見ながら判断していきます。鈴木さんは、司会として班長にそれぞれ意見を求めている様子がみられるため、ウが正答となります。その他の選択肢についても、司会の役割として必要なことですが、この話し合いの中には見られないので正答とはなりません。	
	イ・オ	1と同様、班長としての話し合いの進め方について、話し合い全体を見ながら判断していきます。鈴木さんは、話し合いのはじめに「今回のSDGsの学習を通して私たち中学生ができることを話し合いたいと思います。」と、話し合うテーマを提示していました。また、鈴木さんは班長の発言に対して、自分の考えも付け加えて述べながら、他の人につなげていました。したがって、イとオが正答となります。その他の選択肢については、この話し合いの内容とは合っていないため正答とはなりません。	
	ア	千葉さんが話し合いの中でどのような発言をしているのか、話し合い全体を見ながら判断していきます。千葉さんは2回発言していますが、いずれも田中さんのあとで発言しています。その内容を見ると、田中さんの意見に賛同しながらも、自分の意見を述べている様子が伺えるため、正答はアとなります。	
	エ	話し合いの流れを踏まえた小田さんの最後の発言についての問いです。空欄Aの直前は「私も」なので、それまで発言した田中さん、千葉さんの意見に近い内容として、「給食を残さないこと」について述べていることが考えられます。空欄Bについては、話し合いの流れを踏まえると、食品ロスの問題に関する話題が出てくるので、環境について触れていることが考えられます。したがって、エが正答となります。	
2	ア	読み手にとって説得力のある文章にするためには、根拠を明確にする必要があります。沢田さんは、自分の考えを支える根拠として、祖母との手紙のやり取りについて、自分の体験を根拠としています。したがって、アが正答となります。その他の選択肢については、沢田さんの意見文には表れていない内容であるため正答とはなりません。	
	イ	読み手にとって説得力のある文章にするためには、一方の意見だけでなく、予想される立場の違いや反対の意見を述べた上で自分の考えを主張すると効果的です。そのため、メールやSNSの良さとともに、手紙の問題点を挙げた上で、自分の考え（思いを伝えるには手紙の方が良いという主張）を述べていくと、立場の違い読み手にも納得してもらえる根拠が示せます。	
	いなかった ※「なかった。」も可	文章を書く上での上まりとして、文体の統一があります。文章を書くときには、常体と敬体を混同せず、常体ならば常体、敬体ならば敬体と、文体を統一して書く必要があります。そのため、「いませんでした」という敬体を、他の文と同様に常体に直す必要があり、「いなかった」が正答となります。	
	ウ	「しかし」は前後の事柄が食い違うことを示すときに使う接続する語句です。②の段落では手紙の問題点について述べていますが、反対に③の段落では手紙の良さについて述べています。書き手は「思いを伝えるには手紙の方が良い」という主張なので、③の段落の自分の主張を強調し内容を明確にするために、「しかし」という接続する語句を用いました。したがって、ウが正答となります。	
3	ウ	「察する」とは、人の心中を推測することを意味します。紗英が「決まりきったことをきちんとこなすことができない」という「基礎を身に付けることを面倒だと思う」とは、母はずりて認めています。紗英が生け花をするにあたって、誰が活けても同じ愛を身に付けるのではなく、もっと自分の花を活かたいと思っていること、自分の花はどんな花が咲いていることを母は察し、穏やかな声になったと読み取れます。そのため、正答はウとなります。	
	美しくないなら	姉が紗英に対して根拠よく探した「いちばん美しいの」という言葉は、紗英が反論できないだろうと考えて出てきた言葉だと考えられます。符號より気持ちが楽である副詞でも、「美しくないなら打たないほうがいい」と思っている点や、「美しくないなら花を活かす意味がない」と考えている点を結び付けると、「美しくなくてもいい、とはいえなかった」理由が導き出せます。	
	イ	「呆れる」とは「言動の非常識などに驚いて戸惑いを感じる」ことを意味します。姉が紗英に符號や副詞の決まった手の打ち方の大切さについて話しても、紗英が受け入れず言い合いをし、紗英が基礎を見えることの大切さを理解していない様子を見て、祖母が残念に思っていることが読み取れます。したがって、イが正答となります。	
	ア	「はっとする」とは、ここでは「急に思いがたり気付いたりする」様子を表します。祖母が型が助けてくれるという言葉聞き、毎朝必ずラジオ体操を行う祖母と結びつき、たくさんの知恵に育まれてきた型によって教えられることに気が付いたことが読み取れます。したがって、アが正答となります。	
	前半・・・型通り	順番くんの言葉から、今日活けた紗英の花が、本気で活けたものであることに気が付き、今後面白くなりそうだと期待している様子がわかります。また、最後の部分で、今日活けた紗英の花について「今は型を守って動かないけど、これからどこかに向かおうとする勢いがある」と感想を言っている。これらの点をふまえ、空欄の「型通り」「勢い」という言葉を導き出します。	
	後半・・・勢い	紗英の言葉から「ささこ」という業務で呼ばれるのではなく「紗英」というほんとうの名前で呼んでほしいという心情が読み取れます。その理由は、これが自分だと認める花を活かしたという強い思いからであり、これまでにここにこぼれていただけの自分から脱したい思いにも繋がります。したがって、正答はエとなります。	
4	1(1)	「つとめる」の異字同訓の漢字を問うものです。「務める」は役割や責任を果たすことを表し、主に「(役割)を務める」という使い方をします。「勤める」は働くことを表し、主に「(勤務先)に勤める」という使い方をしますので、ここではウが正答となります。	
	1(2)	「うつる」の異字同訓の問いです。「移る」は主にものごとと違う場所へ移動すること、「写る」は主に写真に形や姿が現れること、「運る」は場所や地位などが変わることで、「映る」は水面や鏡などに姿が見えることを表すので、ここではエが正答となります。	
	2-1	文中の主語と述語を指摘する問いです。まずは述語を探します。述語は「どうする、どんなだ、何だ」を表し、原則として文の一番最後にくるので、「才」置かれた」となります。一方、主語は、述語の主体となります。「何が置かれたのか」を探すと、「工 賃料が」が導き出されます。	
	2-2	述語・・・オ	
	3	イ・ウ	「何かを指し示す語」とは、物事を指し示す働きをもつ語句のことをいいます。具体的には、いわゆる「こ・そ・あ・ど言葉」と言われるものに加え、「以上(は)」、「前者(は)」、「右(の)」なども含まれます。
	4	エ	選択肢はすべて、前後の語句や文などをつなぐ働きをもつ、接続する語句です。そのつなぎ方により分類されることがありますが、ア～ウはすべて順接(前に述べた事柄があとに述べる事柄の原因や理由になること)、エのみは逆接(前に述べた事柄と後に述べる事柄とが食い違っていること)となっています。
	5(1)	ア	漢字の部首と、行書の特徴(点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなど)について理解しているかを問うものです。(1)は「祝」という漢字の行書体で、部首は「しめずん」なので、アが正答となります。
5(2)	ウ	漢字の部首と、行書の特徴(点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなど)について理解しているかを問うものです。(2)は「荒」という漢字の行書体で、部首は「くさかんむり」なので、ウが正答となります。	
6	おもいたえなん	古文のきまりの一つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お(わ行)」に直すこと、「む」は「ん」に直すきまりに従い、「おもいたえなん」と直します。	
7	イ	詩に現れている表現の工夫について指摘する問いです。この詩では、「花は咲いている」という表現を反復することにより、印象を強める効果が生まれています。	

4 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 書くこと

【特徴的な問題】

問題 2 意見文を書く

出題の趣旨

「思いを伝えたい時には、『手紙』と『メールやSNS』のどちらが良いか」というテーマについて、パソコンを使用して意見文の下書きを書く場面を設定した。自分の考えが伝わる文章になるように、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめるとともに、文章の構成や展開を考えたり、根拠を明確にしたりすることを求めている。

指導のポイント

読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える

自分の書いた文章を見直すことによって、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討することが推敲である。その際、書き手としてだけでなく、読み手の立場に立って、伝えようとする考えが伝わるかどうかを確かめながら文章を読み返すことが大切である。

表記や語句の用法を確かめるとは、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分け、語句の選び方や使い方が適切かなどをみることである。また、叙述の仕方などを確かめるとは、文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順などが適切であるかなどをみることである。

学習活動例

根拠を明確にして自分の考えを書く

学習の流れ

- ・説得力のある文章について考える。
 - ・学習の見通しをもつ。
 - ・テーマと立場を決める。
- (第1時)

- ・根拠を明確にして、意見文の下書きを書く。
 - ・下書きを各自で推敲する。
- (第2時)

- ・下書きを読み合い、コメントを伝え合う。
 - ・コメントを踏まえ、書き直す。
- (第3時)

- ・書いた意見文を読み合う。
 - ・学習を振り返る。
- (第4時)

本單元における ICT 活用の例

- 説得力のある文章について考える場面
- 意見文を書く場面
- 下書きを読み合い、コメントを伝え合う場面
- 意見文を読み合う場面

関連する指導事例

- ・平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(中学校国語)「読み手を意識しながら、意見文を書く」
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(小学校国語)「自分の考えを主張する文章を書こう」
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(中学校国語)「読み手の立場に立って、文章を整えよう」
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書(中学校国語)授業アイデア例「考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く」
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校国語)事例2「投書を書こう～多様な読み手を想定して文章全体を整える～」

【意見文の下書き】

- ① 最近、メールやSNSでやり取りする機会が非常に増えたと感じている。私も普段から友達とやり取りするときには、SNSを活用している。なぜなら、メールやSNSは、思い立ったらすぐにメッセージを送ることができ、やり取りをするのにあまり時間がかからないからだ。
- ② 一方、手紙は、書きで文字を書く手間や、相手に届くまでの時間がかかってしまう。実際に周りの友達に聞いてみたが、日常的に誰かと手紙のやり取りをしているという人はほとんどいませんでした。
- ③ しかし、私は、相手に自分の思いをきちんと伝えるには、手紙の方が良いと考える。たしかに手紙は、手間や時間がかかるが、メールやSNSにはない、温かさや個性を表現できると思う。
- ④ 私は普段から祖母と手紙のやり取りをしている。祖母はいつもきれいな字で、私に温かい言葉を送ってくれる。先日は、こんな言葉を送ってくれた。
「勉強や部活動で忙しいと思うけれど、日々、支えてくれる周りの人への感謝を忘れずに過ごしてくださいね。」
- ⑤ こういった言葉そのものもつ温かさはもちろん、私のことを考えて一字一句に書いてくれたと思うと優しい気持ちになる。メールやSNSの良い点も多くあるが、お世話になっている人に感謝の気持ちを伝えたり、大切な人へ自分の思いを届けたい時には、私は手紙が良いと考える。

② 沢田さんは、国語の時間に、「思いを伝えたい時には、『手紙』と『メールやSNS』のどちらが良いか」というテーマで意見文を書いています。次は、沢田さんがパソコンを使用して作成した「意見文の下書き」です。これを読んで、あの問いに答えなさい。①②③は、各1段落ずつ書きます。

vi 中学校第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 話すこと・聞くこと	プレゼンテーションをする	新入生歓迎会において、生徒会長が中学校の紹介を、プレゼンテーション資料を用いて話す準備をする場面を設定した。自分の考えが分かりやすく伝わるように、資料を用いるなどして、聞き手を意識しながら構成や表現を工夫することを求めている。
2 書くこと	手紙を書く	お世話になった人に出す手紙の下書きを書く場面を設定した。読み手の立場に立って、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、表現の効果などを確かめて、文章を整えることを求めている。
3 読むこと	説明的な文章を読む	『植物はすごい 七不思議篇』という文章を取り上げた。文章の中心的な部分と付加的な部分などについて叙述を基に捉えることや、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、複数の情報を整理しながら適切な情報を得たりして、内容を解釈すること、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることを求めている。
4 知識及び技能	伝統的な言語文化 書写	『今昔物語集』を取り上げた。現代語訳を手掛かりに作品を読むことを通して、登場人物の心情などを想像すること、現代の口語とは異なる古文特有のきまりの一つとして、歴史的仮名遣いを理解すること、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することを求めている。
5 知識及び技能	漢字 表現の技法 文や文章	『風の又三郎』を取り上げた。音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うこと、比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を、その意味や用法とともに理解すること、文の構成に着目し、修飾語と被修飾語の照応について理解することを求めている。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）	
		(1)	(2)	(3)	A	B											C
		言葉の特長や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと											読むこと
1	1	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。	○			○											
	2	自分の考えが分かりやすく伝わるように、聞き手を意識しながら話す事柄の順序や表現などについて考えているかどうかをみる。				○			○								
	3	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫しているかどうかをみる。				○				○			R1市【中1】	57.6			
	4	視覚に訴えることの効果などを踏まえ、どのような資料をどのように用いればよいかについて考えているかどうかをみる。				○				○							
	5	自分の立場や考えが明確になるように、聞き手を意識した論理の展開を工夫して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる。				○				○							
2	1	文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。	○						○								
	2	読み手の立場に立って文章を整えるにあたり、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で表現の効果などを確かめているかどうかをみる。					○			○							
	3	文の成分の照応について理解しているかどうかをみる。	○							○							
	4	読み手の立場に立って文章を整えるにあたり、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で表現の効果などを確かめているかどうかをみる。					○				○						
3	1	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈しているかどうかをみる。					○			○							
	2	接続する語句の役割について理解し、文章の構造を捉えることができるかどうかをみる。	○							○			R1市【中1】 R1市【中2】	59.8 87.5			
	3	文章の中心的な部分と付加的な部分などについて叙述を基に捉えることができるかどうかをみる。						○			○						
	4-1	主語と述語との関係について理解しているかどうかをみる。	○							○			R1市【中1】 R1市【中2】	56.1 59.6	小6 中1		
	4-2																
	5	複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈しているかどうかをみる。						○			○						
6	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。						○			○							
4	1	現代語訳を手掛かりに作品を読むことを通して、登場人物の言動を考えることができるかどうかをみる。			○					○			R1市【中2】	78.2			
	2	文語のきまりを理解しているかどうかをみる。			○					○			R1市【中1】 R1市【中2】	63.0 74.5	中1		
	3	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうかをみる。			○					○			R1市【中2】	93.6			
5	1	文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。	○							○							
	2	表現の技法について、その意味や用法とともに理解しているかどうかをみる。	○							○			R1市【中1】 R1市【中2】	65.0 71.1	中1		
	3	文の成分の照応について理解しているかどうかをみる。	○							○			R1市【中1】	49.1			

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中学校国語第2学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	お聞きしました 伺いました ※「お伺いました」も可	問題文に「先生方への敬意が伝わるように」とあるため、先生方に対する「聞く」という行為をへりくだる(控え目に言う)「謙譲語」を答えます。「聞く」の謙譲語は、「お聞きする」「伺う」ですが、一線部の「聞きました」を生かして、「お聞きしました」「伺いました」とします。なお、「お伺いました」も一般的に使われているのでここでは正答としていますが、敬語の用法として「伺う」という謙譲語を用いることですでに先生方への敬意は伝わっているので、謙譲表現としての「お～する」を重ねて使う(二重敬語)は本来は適切でないとしていきます。
	ア・イ	自分の考えが分かりやすく伝わるように、相手の反応を踏まえながら表現を工夫すること、筋道の通った話の進め方をするのが大切です。生徒会長の話の中では、何度も聞き手に問いかけている点、「中学校での学習」「学力を向上させるポイント」について、尊敬の項目を示し、「一つ目は～、二つ目は～」と順論を整理して話をしている点を工夫していることが読み取れます。したがって、ア・イが正答です。
	エ	自分の考えが分かりやすく伝わるようにするには、うなずきや表情などの聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉えること、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意するなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことが大切です。したがって、エが正答となります。
	エ	資料や機器を用いることで、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりすることができます。【改善したスライド】は、そうした目的に沿った形となっており、改善した内容として選択肢ア～ウが当てはまります。一方、選択肢エは、改善する前の【資料2】に見られる特徴なので、適切でないものとしてはエが正答となります。
	ウ	自分の考えが明確になるように話をするためには、話の全体を見直し、話す事柄の順序などについて聞き手を意識しながら考えることが大切です。【資料3】の説明としては、各項目について順番に伝えるのみとなっているため、改めて全体をまとめることで、聞き手がその内容を整理して理解しやすくなるのが考えられるため、ウが正答となります。
2	務	間違えて使用されているのは、手紙中の「部長を努めることになりました」の「努」です。「努める」は、一生懸命努力をすることを表し、「(努力する事柄)に努める」という使い方をしますが、ここでは「部長という役割を引き受ける」という意味で用いられているため、「役割や責任を果たす」という意味で用いられる「務」が正答となります。
	エ	自分の考えが伝わる文章になるように、読み手の立場に立って誤解のない表現やより効果的な表現にすることが必要です。本問では、「厳しいけど楽しい」という表現が矛盾なく伝わるように説明する必要があります。直前の文を読むと、厳しいけど仲間がいるから楽しいという意味が解釈できるため、エが正答となります。
	優勝すること	元の文は、「私の目標は～優勝したいです」と、主語と述語がねじれています。「私の目標は」に対する適切な述語とするために、「優勝したい(です)」を「優勝すること(です)」に直します。
	エ	佐藤さんが手紙を書いた意図を伝えるためのアドバイスについて答える問なので、手紙を書いた意図を考えます。本文では、「ぜひお伝えしたいことと、お願したいこと」として、新人戦に応援に来てほしいことを述べています。したがって、エが正答となります。
3	イ	大段落の内容を踏まえて、適切な小見出しを選択する問です。前半の大段落では、トマトのタネをまいて発芽することを実証しています。後半の大段落では、果実の中ではタネが発芽しない理由について説明しています。したがって、イが正答となります。
	ア	前後の語句や文などをつなぐ働きをもつ接続する語句の働きについての問です。空欄の前後で、どのような内容のつながりがあるのかを確認すると、どちらも前に述べたことと反対の内容を述べているため、アが正答となります。
	お皿のよう	「試みる」とは、どんな結果になるか、試しにやってみることです。ここでは、トマトのタネが発芽するのかしないのかを調べることを試みている、連続する三文を探し、最初の五字を答えます。
	主語・・・エ	文中の主語と述語を指摘する問です。まずは述語を探します。述語は「どうする、どんなだ、何だ」を表し、原則として文の一番最後にくるので、「カ 発芽します」となります。一方、主語は、述語の主体となります。「何が」発芽するのかを探すと、「エ タネが」が導き出されます。
	ア	トマトの果実の中のタネが「発芽の三条件」を満たしているかという――部の問いに対する答えが、――部以降に書かれています。発芽のそれぞれの条件について順に説明している内容を読んでいくことにより、表の空欄に当てはまるキーワードを得ることができ、正答が導き出されます。
	ハ	空欄イ～ハの段落を確認し、挙げられている一文に関連する内容であるかどうかを検討します。ここでは、発芽を抑制する物質について触れられている段落であるハが正答となります。
4	ア	口語訳を基にして文章の展開を捉え、主語を答える問です。この文章は、唐に渡ってから長年帰国できなかった阿倍仲麻呂のことが中心に描かれており、――部も阿倍仲麻呂が主語として解釈されます。
	いいえなんなきける	古文のきまりの一つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問です。語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お(わ行)」に直すこと、「む」は「ん」に直すきまりに従い、「いいえなんなきける」と直します。
	ア	点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略など、行書の特徴と、行書に調和する仮名の書き方を理解しているかを問う問です。平仮名は漢字よりも小さめに書くことよといわれています。
5	エ	空欄に当てはまる適切な漢字を答える問です。選択肢をそれぞれ訓読みすると、「ア ふく」「イ さげぶ」「ウ すう」「エ ふく」となり、イとは当てはまりません。「噴く」は、内部にある液体などが勢いよくふき出すこと、「吹く」は風が動いて運ぶことを表すため、エが正答となります。
	ア	文章に表れる表現の技法とその効果について理解しているかを問うものです。「林はまるでほえるよう」は、実際にはほえることはない林を、ほえるものにとどえて「比喩」の表現となっています。比喩の表現により、強い風に吹かれる林の様子よりイメージしやすくなります。
	ア	修飾・被修飾の関係を理解しているかを問うものです。「修飾語」とは、他の語句を詳しくする語であり、「ぶるるっ」が詳しくしている文節を探すと、「(どのように)鳴りました」ということについて詳しくしている、と見ることができま。

4 特徴的な問題と解説

中学校第2学年 話すこと・聞くこと

【特徴的な問題】

問題 1 プレゼンテーションをする

出題の趣旨

新入生歓迎会において、生徒会長が中学校の紹介を、プレゼンテーション資料を用いて話す準備をする場面を設定した。自分の考えが分かりやすく伝わるように、資料を用いるなどして、聞き手を意識しながら構成や表現を工夫することを求めている。

指導のポイント

資料や機器を用いるなどして自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する

資料や機器を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりする

など、聞き手に分かりやすく伝えるためである。目的や状況、相手に応じて、様々な資料や機器を用いながら話すことにより、話し手の考えが正確に伝わり聞き手の理解をより深めることになる。

話し言葉の特徴や、視覚に訴えることの効果などを踏まえ、どのような資料や機器をどのように用いればよいのか、伝えたい内容を適切に伝えるために有効かなどについて考え、必要な資料や機器を検討することが重要である。

学習活動例

資料を活用して発表をする

学習の流れ

- ・相手に分かりやすく伝わる表現について考える。
- ・学習の見直しをもつ。
- ・テーマに沿って話題を考える。
- ・資料及びスピーチメモの準備をする。
- ・リハーサルをし、より伝わる内容となるよう手直しをする。
- ・班で発表をし合い、相互評価をする。
- ・学習を振り返る。

(第1時)

(第2時)

(第3時)

(第4時)

本單元における ICT 活用の例

- 相手に分かりやすく伝わる表現について考える場面
- 話題を考える場面
- 資料を作成する場面
- リハーサルをし、手直しをする場面

関連する指導事例

- ・平成27年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(中学校国語)「テーマを決めて、プレゼンテーション対決をしよう」
- ・令和2年度全国学力・学習状況調査 使ってみよう!学力調査(中学校国語)「目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話すことができるようにする」
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(小学校国語)「私たちにできるSDGsを提案しよう」

先生に聞きました…

成績を向上させるポイント

- ① 定期テストへの取り組み
- ② 提出物を出すこと
- ③ 日々の授業 **大事**

【資料1】



在校生に聞きました。
「中学校進学を控えて知りたかったこと」

ベスト3

1位		
2位	部活動について	2.5%
3位	行事について	1.5%

中学校のテストは、実施日が決まっています。各教科まとめて行われます。そのため、テストで出題される範囲がとて広いです。そこで大切なのは、余裕をもってしっかり準備することです。前もってコツコツとテスト勉強を始め、テストに備えることが重要です。

【資料1】

【資料2】

【生徒会長の話】

どうでしょうか。本日は時間の関係で、学習の紹介のみになりましたが、中学校生活には部活動や行事など楽しみながら話しています。今日の話を参考に卒業した中学校生活を送ってください。ご質問がありましたらどうぞお願いします。

A

日々の授業に対する姿勢、結果的に様々な成果につながっていくので、確かに、身近な友人の様子を見ても、授業を大切にしている人は、定期テストでも納得のいく結果を出しているようです。また、提出物についてもきちんと出しています。

目々の授業に対する姿勢、結果的に様々な成果につながっていくので、確かに、身近な友人の様子を見ても、授業を大切にしている人は、定期テストでも納得のいく結果を出しているようです。また、提出物についてもきちんと出しています。

目々の授業に対する姿勢、結果的に様々な成果につながっていくので、確かに、身近な友人の様子を見ても、授業を大切にしている人は、定期テストでも納得のいく結果を出しているようです。また、提出物についてもきちんと出しています。

目々の授業に対する姿勢、結果的に様々な成果につながっていくので、確かに、身近な友人の様子を見ても、授業を大切にしている人は、定期テストでも納得のいく結果を出しているようです。また、提出物についてもきちんと出しています。

目々の授業に対する姿勢、結果的に様々な成果につながっていくので、確かに、身近な友人の様子を見ても、授業を大切にしている人は、定期テストでも納得のいく結果を出しているようです。また、提出物についてもきちんと出しています。

目々の授業に対する姿勢、結果的に様々な成果につながっていくので、確かに、身近な友人の様子を見ても、授業を大切にしている人は、定期テストでも納得のいく結果を出しているようです。また、提出物についてもきちんと出しています。

目々の授業に対する姿勢、結果的に様々な成果につながっていくので、確かに、身近な友人の様子を見ても、授業を大切にしている人は、定期テストでも納得のいく結果を出しているようです。また、提出物についてもきちんと出しています。

【1】 さいたま市立中学校の生徒会では、四月に行われる新入生歓迎会の準備を進めています。その中で、生徒会長が中学校の紹介を、プレゼンテーション資料を用いて話す予定です。次の「生徒会長の話」(資料1)「資料2」を読んで、あとの問いに答えなさい。

令和4年度 さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【国語】

【小学校校長会】 与野西北小学校 校長 書上 敦志

【中学校校長会】 土屋中学校 校長 田村 浩司

【小学校国語科部会】

部長 神田小学校 校長 米玉利優子
副部長 野田小学校 教頭 佐藤 大介
部員 高砂小学校 教諭 谷口 周
常盤小学校 教諭 若狭 彩香
上木崎小学校 教諭 清正 彩
原山小学校 教諭 浅子 直基
大谷場東小学校 教諭 下山田遼子
善前小学校 教諭 佐藤真奈美
大宮小学校 教諭 高橋佳那子
大宮南小学校 教諭 山田 郁子
芝川小学校 教諭 松尾 祐介
大谷小学校 教諭 野村 昌平
東宮下小学校 教諭 長谷川修子
上落合小学校 教諭 小山 典子

【中学校国語科部会】

部長 与野東中学校 校長 金子 要一
副部長 片柳中学校 教頭 廣江 剛
部員 木崎中学校 教諭 手島 真弓
原山中学校 教諭 遠藤いくみ
大久保中学校 教諭 橋本 柗平
宮原中学校 教諭 乾 ひとみ
植竹中学校 教諭 根岸 佳代
春里中学校 教諭 緒方 健人
岩槻中学校 教諭 長谷川聡子
美園南中学校 教諭 平井 亮

【担当】

教育研究所 主任指導主事 小林 亮博
指導1課 主任指導主事 江原 瑞貴

教育研究所 主任指導主事 阿部 史朗
指導1課 主任指導主事 古川 明子

令和4年度 さいたま市学習状況調査 正答例等 国語

令和5年1月 発行

発行 さいたま市教育委員会

編集 さいたま市立教育研究所
